

2014 年 9 月 13 日 ～ 9 月 15 日

立山・劔岳

M2 塙 孝哉

【参加メンバー】 4 名

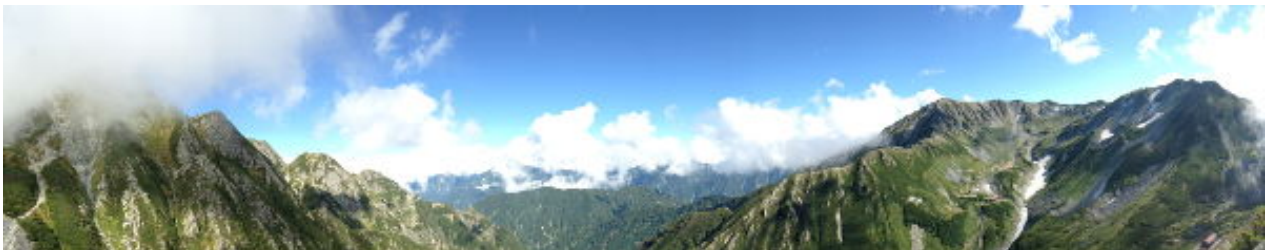
M3 田中 M2 塙 堀江 C1 上村

【コースタイム】

9 月 13 日 扇沢 6:30 ～ (立山黒部アルペンルート) ～ 室堂 9:30 ～ 一ノ越 10:30 ～ 雄山 11:30 ～ 大汝山 12:00 ～ 富士ノ折立 12:30 ～ 真砂岳 13:10 ～ 別山 14:30 ～ 北峰 15:00 ～ 別山 15:30 ～ 劔沢キャンプ場 16:00 (幕営)

9 月 14 日 劔沢キャンプ場 5:30 ～ 劔山荘 6:30 ～ 一服劔 7:30 ～ 前劔 8:30 ～ 平蔵のコル 10:00 ～ 劔岳 12:00 ～ 前劔 14:30 ～ 一服劔 14:50 ～ 劔山荘 15:10 ～ 劔沢キャンプ場 15:30 (幕営)

9 月 15 日 劔沢キャンプ場 5:30 ～ 劔御前小屋 6:00 ～ 雷鳥沢キャンプ場 7:30 ～ 室堂 8:50



1 日目

堀江さんの車で、荻窪から出発。蓼科のときといい、今回といい、堀江さんの車は本当にありがたい。

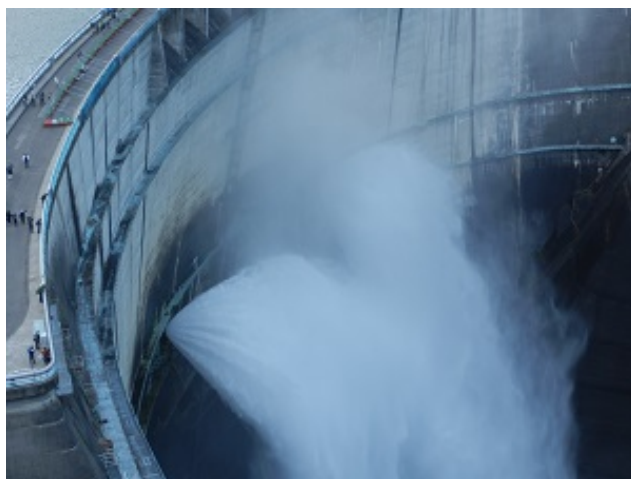
早朝、扇沢駅に着く。天気予報も最高の三連休とあってか、案の定かなりの人で、無料駐車場はすでに満車。有料駐車場に停車する。チケット売り場は長蛇の列で 30 分待ち。(後輩のために記しておくが) 手荷物検量があり、10 kg 以上の人は、荷物券も購入する。乗車券は往復全区間この駅で購入できるが、荷物券は扇沢で全区間分購入することができず、途中駅で買い足さなくてはいけないため注意。お弁当売りのおじさんのセールストークが面白い。天性のセンスを感じる。漫談を聴いているような感じで、待ち時間はあっという間に過ぎた。

トロリーバスやケーブルカー、ロープウェーを経て室堂平へ。雄山までは、小 6 のとき来て以来、10 年ぶりのルート。おぼろげな記憶を辿るように、よく整備された斜面を上がる。あっという間に山頂へ。まあ室堂で既に 2,450 m なのだから無理もないか。やや浮石が増えつつも難なく大汝山へ。今回の山行における最高点にいるはずなのだが、皆(周囲の登山者も含めて)の思いは、はや劔に向かっている様子(笑)。味のある低山に登ってみて魅せられたとき「よい山は標高だけで決まらない」とはよく言うが、今回の「標高だけで決まらない」は、やや状況が違う。登る前から他山旅行者の心を奪う劔、いよいよ恐るべし。

富士ノ折立、真砂岳を順調に経由して別山へ。荷物を置いてサクッと北峰へピストン。ここからの劔岳が格別に格好良かった。「山」という字の甲骨文字は、ひょっとして別山北峰から望んだ劔岳をモデルにしているんじゃないだろうか、などと思ったりして。山頂はガスで視界の開けないことが多かったのも、個人的には今回の山行中で最も印象的な光景であった。



黒部ダム



大放水を行っていた。近くで見るとかなりの迫力。



室堂平へ到着。山の空気が心地よい。



秋晴れの三連休初日とあって、たいへんな賑わい。



素朴な祠。往古よりの山岳信仰に思いを馳せる。



大汝山 3,015 m は今回の山行における最高到達点。



縦走は順調に続く。



別山北峰より、劔岳を望んで集合写真。

別山を登って間もなく、雨が降り出す。テント場はもう目の前に見えるのに、なかなか着かないのがもどかしい。時間にして 20 分程度の間に、みな随分と濡れてしまった。テント場には所狭しとテントが並び、めぼしい箇所には先客がいて、雨は次第に強くなる。多少の凹凸には目を瞑り、テントを超特急で張り終えた。結局雨に降られたのは 3 日間を通じてこのときだけで、たいへん恵まれた山行であったといえる。

2 日目

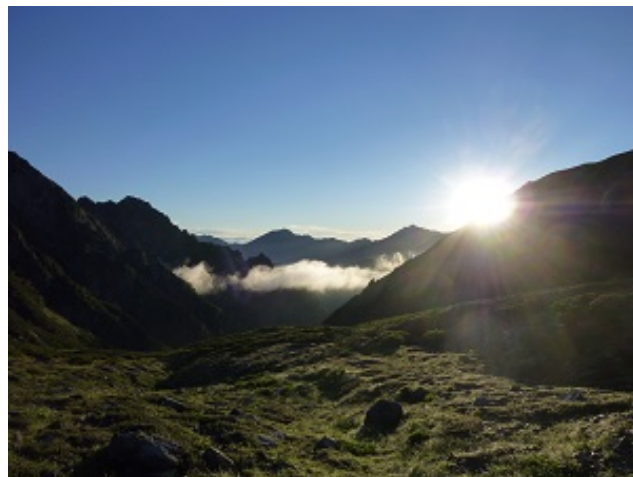
夜（未明）。除ききれなかったテント下の石が背骨にあたって目が覚める。雨は止んだようだ。雲も消えたらしく、冷え込みが著しい。テントのファスナーを開けようと手をかけ、昨夜の雨が表面で凍っていることを知る。パリパリ、と氷が剥げる音。顔を出すと、劔岳のシルエットがこれまた美しい。いつ、どこから見ても絵になる山だ、とあらためて思う。既に多くの人が登っているようで、1 時出・2 時出の方々が、稜線沿いに沢山のライトを光らせている。それらがチラチラと瞬くので、山全体がイルミネーションを受けているように見える。

期待に胸膨らませつつパスタを食べて、東雲の空の下を出発し、能動的に朝日を迎える。能動的に朝日を迎えるのは、登山者の特権だと私は思っている。東に見える山の形に、日向と日陰がくっきりと描き分けられて、それを日陰から日向へと横断する瞬間が、非常に好きだ。

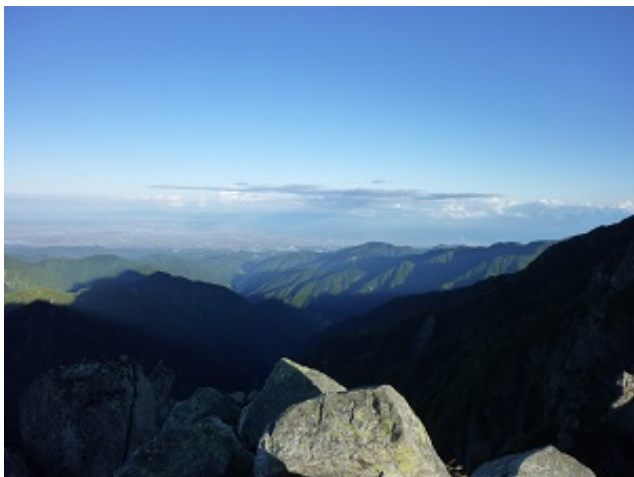
そして、渋滞。冒頭に記載したコースタイムを見て、首をかしげられた方も少なくないと思うが、そう



間もなく「能動的に」朝日を迎えようというところ。



太陽の力を感じる。



遙かに能登半島を望む。



登っては下り、下ってはまた登る。

なのだ。とんでもない渋滞であった。30年間ガイドをされている方が「こんな渋滞は初めてだ」と言ったとのこと。ある意味、貴重な経験であった。「山又山山桜又山桜」と詠んだのは誰だったか、今ならきっと「山又山登山客又登山客」と詠んだだろうな、などという仕様もないことが頭に浮かんで消え、浮かんで消えていった。（注：帰宅後調べたら阿波野青畝であった。）ガスで日が見えなくなると、それなりに冷える。寒さを紛らわそうと、4人で「あたたかいもの（あついもの）しりとり」をしたりしながら待った。サモア・・・炙り烏賊・・・カレー・・・笑顔・・・思い遣り・・・リビア・・・アントニオ猪木・・・といった調子。個人的に、上村のワードチョイスがツボだった。



難所毎にディズニーランド顔負けの大渋滞。



山また山。登山客また登山客。

帰りは順調。カニのよこばいも、田中先輩の完璧なアドバイスのお陰で全く問題なし。たてばい・よこばい以外にも、多様な岩場・鎖場があり、とても楽しい。剣沢小屋からきた道を振り返り、あらためて良い山だったな、と目に焼き付ける。テント場到着後、引っ越しを決行。昨日よりだいぶ良い環境で眠りに就く。

3日目

朝焼けが美しい。ゆるいルートを楽し々室堂へ戻る。硫黄の強烈な匂い。地獄谷近辺は火山性ガス噴出活性化により、通行禁止。日帰り温泉は9時からだが、今日は物凄く混雑するだろう、とのこと。潔く諦めてトロリーバスに乗ると、臨時便増発で乗り継ぎがよく、あっという間に扇沢に戻ってしまった。弁当売りおじさんのトークは相変わらず面白い。中高年層主体の日帰り旅行者一行が爆笑の渦に包まれている。



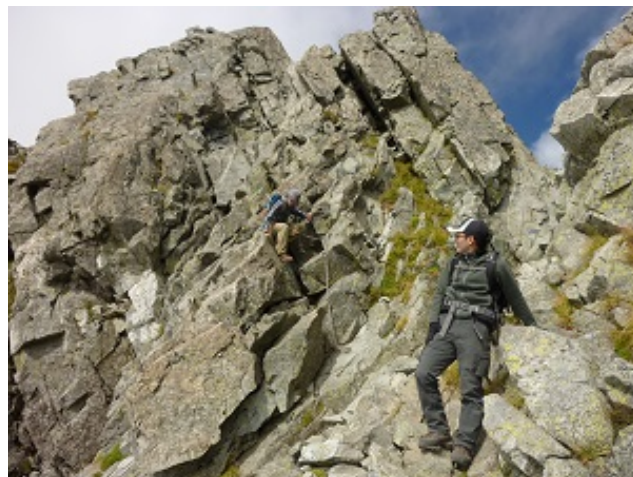
イワギキョウであろうか。列に並び疲れた我々の目を楽しませてくれる。



カニのたてばいは特に凄かった・・・渋滞が。



劔岳山頂にて



平蔵の頭にて。堀江（手前）と上村（奥）



劔沢小屋より、お決まりの一枚。



一日中晴天に恵まれた。感謝。



朝焼け。写真では上手く伝えることができず残念だが、とても美しかった。



ゆるいルートを楽々室堂へと戻る。



温泉地帯。硫黄の強烈な匂い。



室堂の池。蓼科の池巡りとはまた違った趣がある。

高速道路も、渋滞。渋滞解消のためには、ブレーキをできるだけ踏まないようにするとよい、という堀江さんの運転テクを見る。結局、日のあるうちに東京へ着いた。

同行者にも恵まれ、たいへん充実した、幸せな山行であったと、この山行報告を書きながら改めて思う。本当に、ありがとうございました。